



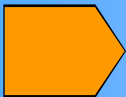
2020年3月期 第2四半期  
**決算補足資料**

証券コード：6908

2019年11月5日

イリソ電子工業株式会社



-  **I . 2020.3期 第2四半期連結決算概要**
- II . 2020.3期 連結決算見通し**

## 前期後半からの市況悪化が継続。売上・利益ともに前年同期比減少

- ・ 売上：前期後半から米中貿易摩擦の影響により自動車市場、インダストリアル市場ともに市況が悪化。自動車販売台数の減少、投資の抑制が続いており減収。加えて、ユーロと元が急激に円高に推移したことで△約5億円の影響あり。四半期別では2Qは1Qより販売数量は増加しているものの、為替の影響などでマイナス。車載カーエレクトロニクス分野とインダストリアル市場は回復基調だが、車載AVN分野が搭載車種の販売台数が想定より伸びず苦戦が続く。

ADASの進展により安全系(カメラ・レーダー)向けが約10%増加、三次元可動BtoBコネクタ“Z-Move<sup>®</sup>”を含む電動車のパワートレイン系向けが約45%増加。この2領域で全売上の21.8%の規模へ成長。

- ・ 利益：通常の前価低減に加えてコンティンジェンシープランにより追加の削減を行ったものの、売上減少と在庫適正化のための生産調整に伴う稼働の低下などの影響により減益。四半期別では、下期以降の販売の見通しが想定以下のため2Qに生産調整を大きく行ったことにより1Q比減益。

### 【トピックス】

- ・ 車載市場の区分を変更し、投資家の皆様によりわかりやすくします。2020年3月期は現区分と新区分を併記し、2021年3月期からは新区分に移行する予定です。→詳細はP4、5をご参照ください。

## 2. 2020年3月期第2四半期連結業績(前年同期比)



単位：百万円

	19.3期 第2四半期 累計	20.3期 第2四半期 累計	前年同期比
売上高	21,765	20,064	△1,701 92.2%
営業利益	3,674 (16.9%)	2,381 (11.9%)	△1,292 64.8%
経常利益	4,035 (18.5%)	2,359 (11.8%)	△1,675 58.5%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	2,966 (13.6%)	1,670 (8.3%)	△1,296 56.3%
E P S	125.48円	70.88円	
為替レート 期中平均	ドル 110.07円 ユーロ 129.88円	108.99円 121.42円	△1.08円 △8.46円

## 3. 車載市場の区分変更について①

### ■変更の背景

自動車はCASE(Connected：コネクティッド化、Autonomous：自動運転化、Shared：カーシェア、Electric：電動化)に代表される100年に1度の大きな変革が起きており、自動車内の機器や使われ方に変化が起きています。この変化に合わせて区分変更を致します。

#### →①インフォテインメント（「Information+Entertainment」の合成語）

従来のカーナビゲーションやメーター計器類などが、車体、速度、車内外の状況などの様々な情報の表示と外部との通信のために統合されていくことを想定し、カーナビゲーションなどの部分とダッシュボードの計器類を「インフォテインメント分野」としてまとめる

#### ②セーフティ

カメラなど、車の安全を確保するセンサー関連を「セーフティ分野」として独立させ、自動運転に向けた需要の変化を捉える

#### ③パワートレイン

電気自動車などの駆動用モーターに電気を供給する部分を「パワートレイン分野」として独立させ、電動化によるパワートレインの需要の変化を捉える

### ■車載市場の区分変更

車載市場をAVN、カーエレクトロニクスの2区分から

- ・インフォテインメント
- ・セーフティ
- ・パワートレイン
- ・その他

の4区分へ変更します。



## 4. 車載市場の区分変更について②

### ■各区分内の主な当社コネクタ搭載アプリケーション

新区分	主なアプリケーション	※現区分
エン터테인먼트	・カーナビゲーション、 カーオーディオなど	AVN
	・メーター計器類など	カーエレクトロニクス
セーフティ	・カメラなど	
パワートレイン	・モーター駆動回路など	
その他	—	

## 5. 売上高詳細(市場別) ※現区分市場別



単位：百万円

		20.3期 第2四半期累計	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		17,088	92.5%	85.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要地域で自動車販売が不振</li> </ul>
区分	AVN (カーAV、ナビゲーションシステム等)	6,965	82.9%	34.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カーエレクトロニクス分野は安全系向けが前年同期比約10%、パワートレイン系向けが前年同期比約45%増加したことで横ばいを維持</li> </ul>
	エレクトロニクス (安全系、電装関連、駆動系等)	10,123	100.4%	50.5%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TV等)		1,980	92.3%	9.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合機、ゲーム機、デジカメ向けを中心に減少</li> </ul>
インダストリアル (産業機器等)		996	87.5%	5.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米中貿易摩擦の影響で中国での設備投資が抑制されており減少</li> </ul>
合計		20,064	92.2%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外比率80.0%</li> </ul>

注：AVNIは、オーディオビジュアルナビゲーションの略で、カーオーディオ全般、ナビゲーションシステム等のこと



## 6. 売上高詳細(市場別) ※新区分市場別



単位：百万円

		20.3期 第2四半期累計	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		17,088	92.5%	85.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国を中心に主要地域で自動車販売が不振</li> <li>・ セーフティ分野、パワートレイン分野は計画よりやや弱い、伸びは継続</li> <li>・ セーフティ分野、パワートレイン分野以外は販売台数減少の影響を受けた</li> </ul>
区 分	インフォテインメント	9,823	84.9%	49.0%	
	セーフティ	3,630	110.8%	18.1%	
	パワートレイン	749	145.1%	3.7%	
	その他	2,886	92.6%	14.4%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TVなど)		1,980	92.3%	9.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合機、ゲーム機、デジカメ向けを中心に減少</li> </ul>
インダストリアル (産業機器など)		996	87.5%	5.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米中貿易摩擦の影響で中国での設備投資が抑制されており減少</li> </ul>
合計		20,064	92.2%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外比率80.0%</li> </ul>





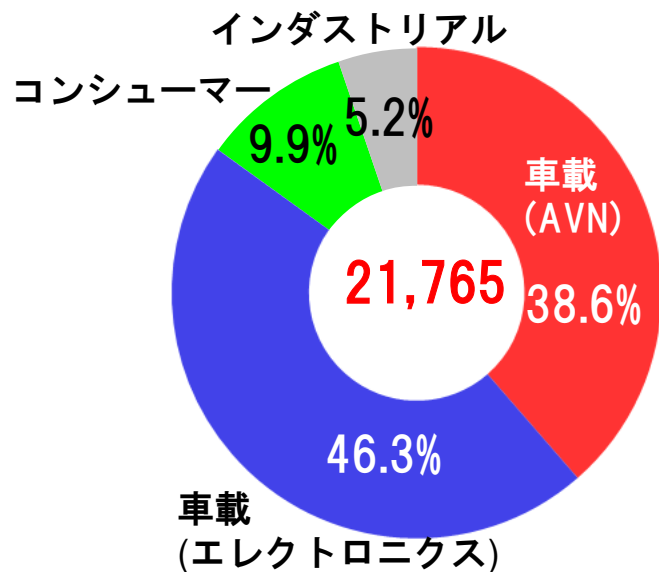
# 7. 市場別売上高構成比推移(前年同期比)



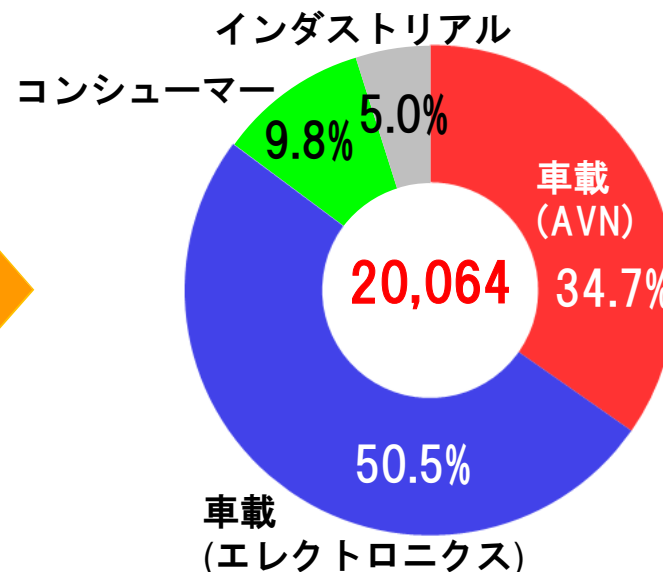
単位：百万円

現区分

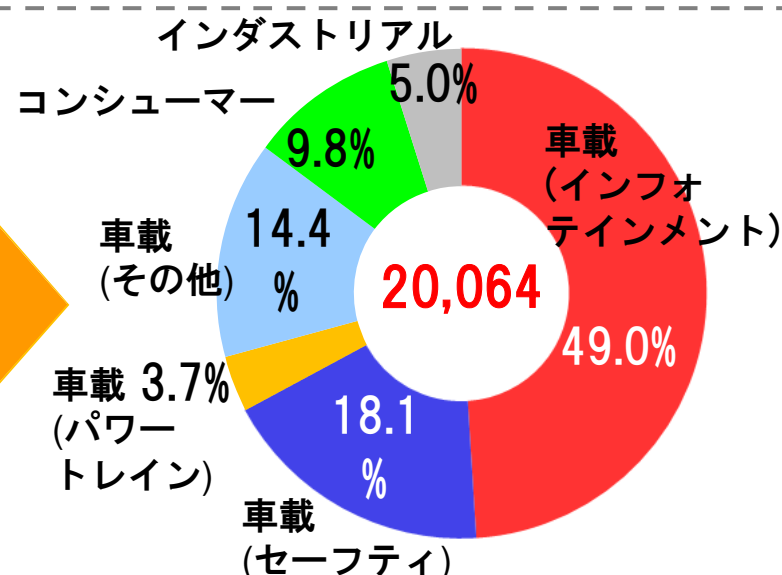
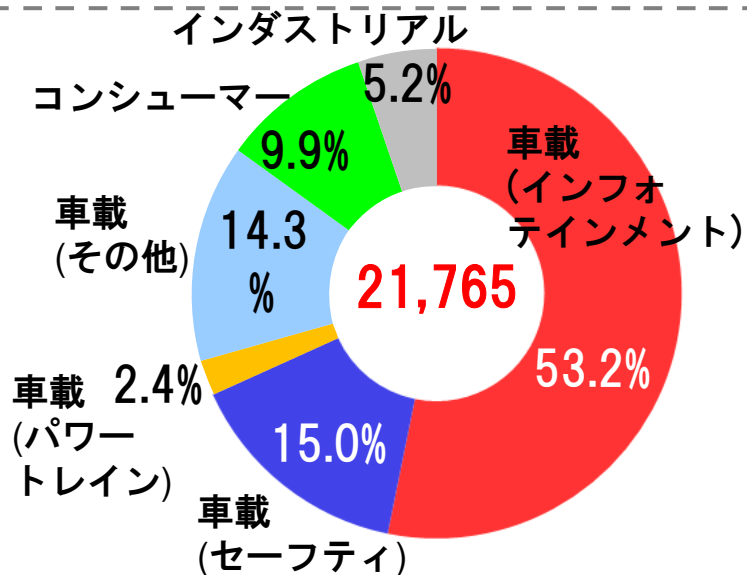
19.3期第2四半期



20.3期第2四半期



新区分



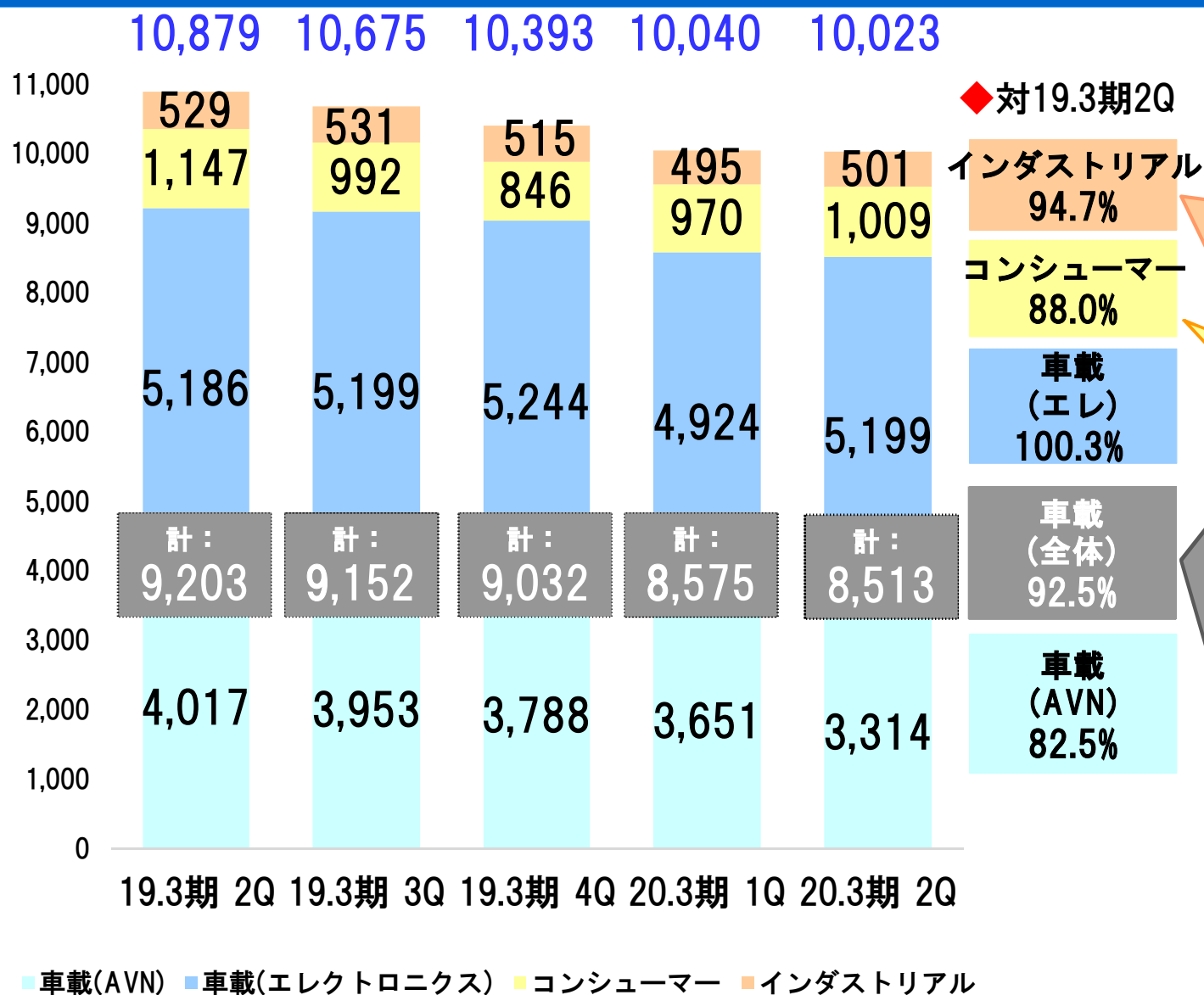


# 8. 市場別売上高(四半期推移)

※現区分市場別



単位：百万円



・米中貿易摩擦の影響による設備投資抑制でFA機器向けの需要が鈍化

・直前四半期比では3Qぶりに増加

・複合機、ゲーム機向けを中心に減少

・中国を中心に、新車販売不振の影響で、従来から搭載されているカーナビやクラスター、スイッチ関連向けで減少

・AVN分野は台数減に加えて、1台当たりの搭載金額減少の影響もあり

・安全系とパワートレイン系向けは堅調で、カーエレクトロニクス分野は直前四半期比も増加

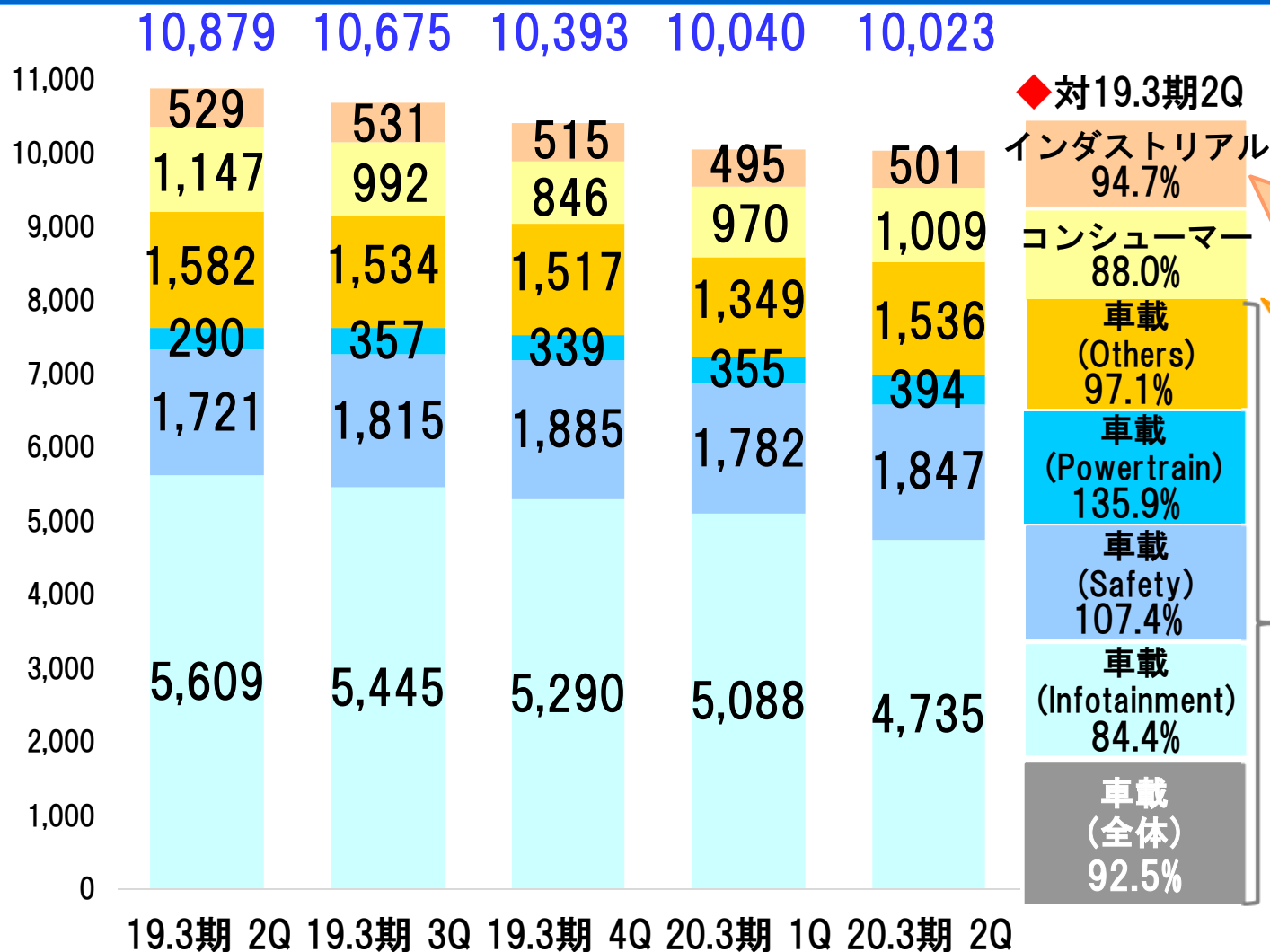


# 9. 市場別売上高(四半期推移)

## ※新区分市場別



単位：百万円



- 車載(インフォテインメント)
- 車載(パワートレイン)
- 車載(セーフティ)
- 車載(その他)
- インダストリアル
- 車載(全体)
- コンシューマー

- ◆ 対19.3期2Q
- インダストリアル 94.7%
  - コンシューマー 88.0%
  - 車載 (Others) 97.1%
  - 車載 (Powertrain) 135.9%
  - 車載 (Safety) 107.4%
  - 車載 (Infotainment) 84.4%
  - 車載 (全体) 92.5%

・ 米中貿易摩擦の影響による設備投資抑制でFA機器向けの需要が鈍化

・ 直前四半期比では3Qぶりに増加

・ 複合機、ゲーム機向けを中心に減少

・ 中国を中心に、新車販売不振の影響で、従来から搭載されているカーナビ(インフォテインメント分野)やクラスター(インフォテインメント分野)、スイッチ関連(その他)向けで減少

・ インフォテインメント分野はカーナビ向けの不振の影響もあり

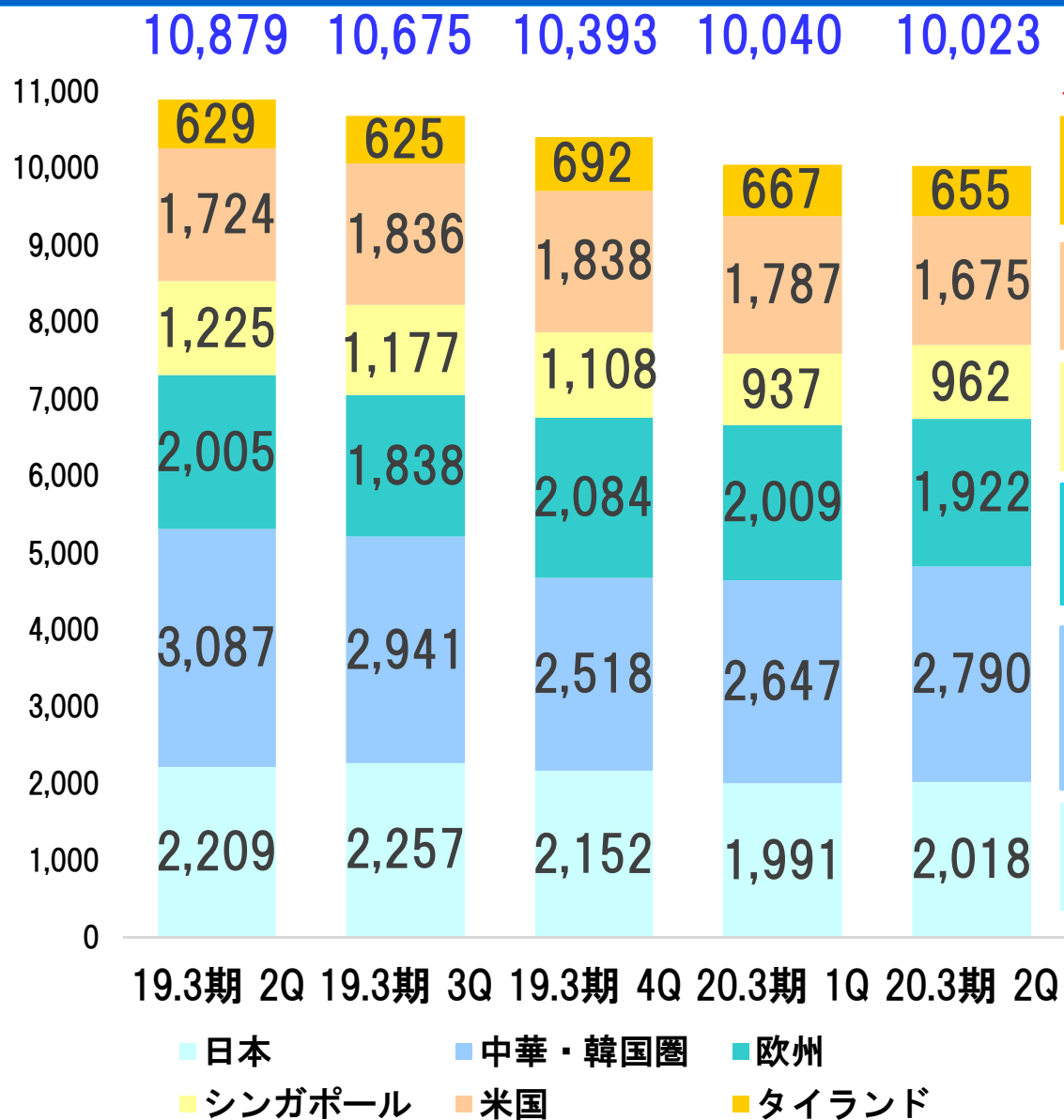
・ セーフティ分野とパワートレイン分野は堅調で、直前四半期比も増加



# 10. 地域別売上高(四半期推移)



単位：百万円



◆対19.3期2Q

タイランド  
104.2%

米国  
97.2%

シンガポール  
78.5%

欧州  
95.9%

中華・韓国圏  
90.4%

日本  
91.3%

・コンシューマー市場の減少を車載市場がカバー

・車載市場でAVN分野、カーエレクトロニクス分野ともに減少

・カーAVN分野を中心に車載市場が減少。

・円高の影響がなければ4%増加  
・安全系向けが牽引

・新エネルギー車増加によりパワートレイン系向けは好調。  
・AVN分野は不調

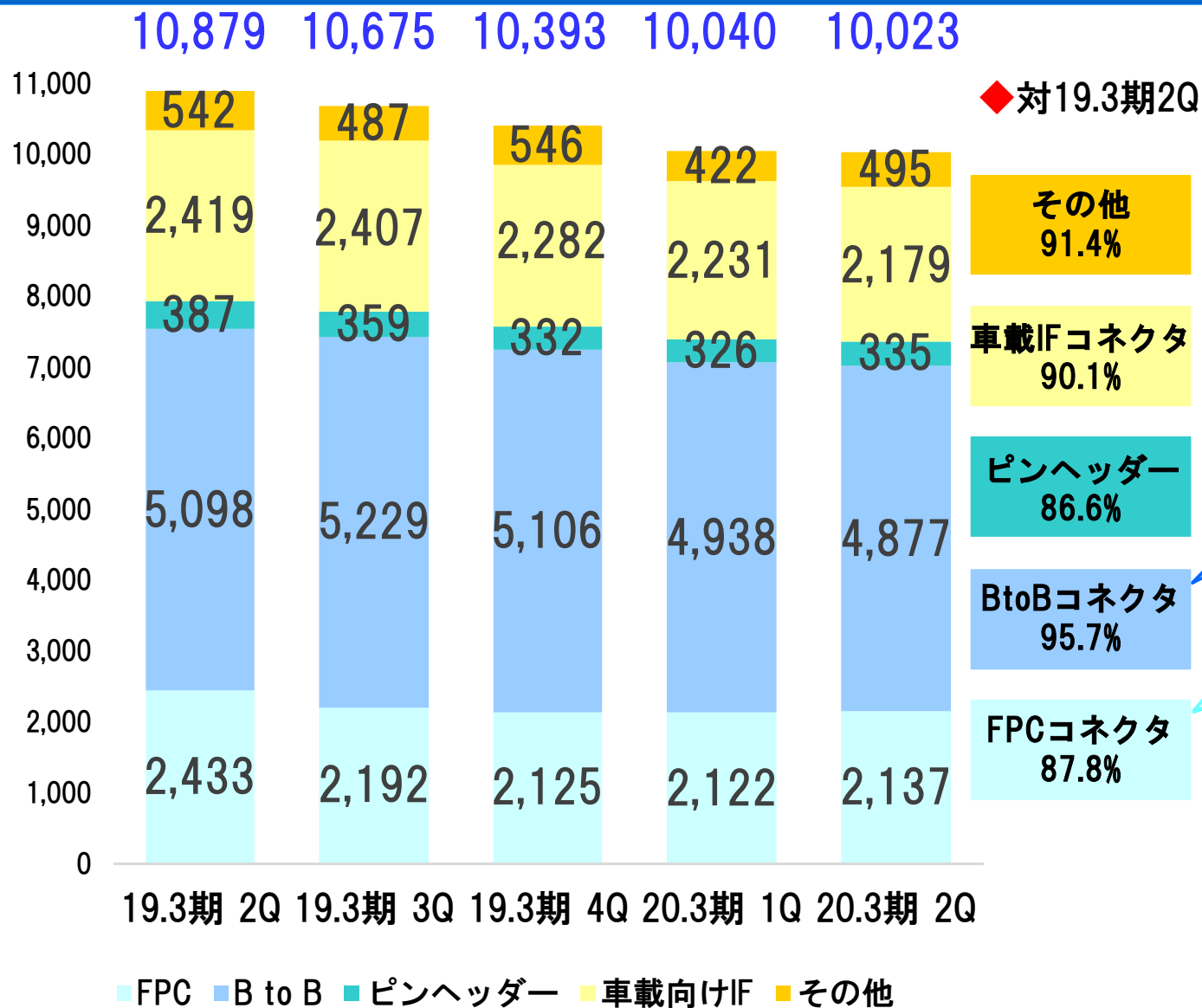
カーエレクトロニクス分野で増加したが、その他の市場で減少



# 11. 製品別売上高(四半期推移)



単位：百万円



・ 車載市場の減少

・ カーAVN分野、  
コンシューマー市場での減少

FPC      BtoB

ピンヘッダー      車載IF

## 12. 損益計算書(連結)(前年同期比)



単位：百万円

	19.3期 第2四半期累計		20.3期 第2四半期累計		前年同期比	
売上高	21,765	100.0%	20,064	100.0%	△1,701	92.2%
売上原価	13,670	62.8%	13,411	66.8%	△259	98.1%
売上総利益	8,094	37.2%	6,652	33.2%	△1,441	82.2%
販売管理費	4,419	20.3%	4,271	21.3%	△148	96.6%
営業利益	3,674	16.9%	2,381	11.9%	△1,292	64.8%
営業外収益	390	1.8%	61	0.3%	△329	15.7%
営業外費用	29	0.1%	83	0.4%	53	282.0%
経常利益	4,035	18.5%	2,359	11.8%	△1,675	58.5%
特別損益	△87	△0.4%	△31	△0.2%	56	36.0%
税前利益	3,948	18.1%	2,328	11.6%	△1,620	59.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,966	13.6%	1,670	8.3%	△1,296	56.3%
E P S	125.48円		70.88円		-	
為替レート (ドル/ユーロ)	110.07円/ 129.88円		108.99円/ 121.42円		△1.08円/ △8.46円	



# 13. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位：百万円

	19.3期		20.3期 第2四半期		前期末比	要因
流動資産	35,103	57.1%	31,277	53.2%	△3,825	現金及び預金△2,523 受取手形及び売掛金△657 商品及び製品△460
固定資産	26,368	42.9%	27,482	46.8%	1,114	有形固定資産1,510
資産合計	61,471	100.0%	58,760	100.0%	△2,711	
流動負債	9,442	15.4%	7,890	13.4%	△1,551	未払法人税等△1,444 支払手形及び買掛金△542
固定負債	699	1.1%	1,130	1.9%	430	
負債合計	10,141	16.5%	9,020	15.4%	△1,120	
株主資本	49,351	80.3%	49,601	84.4%	250	利益剰余金249
その他の 包括利益累計額	1,663	2.7%	△174	△0.3%	△1,838	為替換算調整勘定△1,827
非支配株主持分	315	0.5%	312	0.5%	△2	
純資産合計	51,329	83.5%	49,739	84.6%	△1,590	1株純資産 2,097.29円 (前期末 2,164.68円)
負債・純資産 合計	61,471	100.0%	58,760	100.0%	△2,711	

# 14. キャッシュフロー計算書(連結) (前年同期比)



単位：百万円

	19.3期 第2四半期	20.3期 第2四半期	増減
営業キャッシュフロー	2,503	2,747	243
税金等調整前四半期純利益	3,948	2,328	△1,620
売上債権増減 (△は増加)	△259	19	278
仕入債務増減 (△は減少)	△949	△23	925
投資キャッシュフロー	△3,235	△3,391	△156
有形固定資産の取得	△3,196	△3,342	△146
無形固定資産の取得	△17	△47	△29
財務キャッシュフロー	△1,901	△1,539	361
配当金の支払い額	△1,182	△1,419	△237
自己株式の取得による支出	△669	△0	669
現金及び現金同等物に係る換算差額	194	△339	△533
現金及び現金同等物の増減	△2,439	△2,523	△83
現金及び現金同等物の期首残高	17,352	15,456	△1,895
現金及び現金同等物期末残	14,913	12,933	△1,979

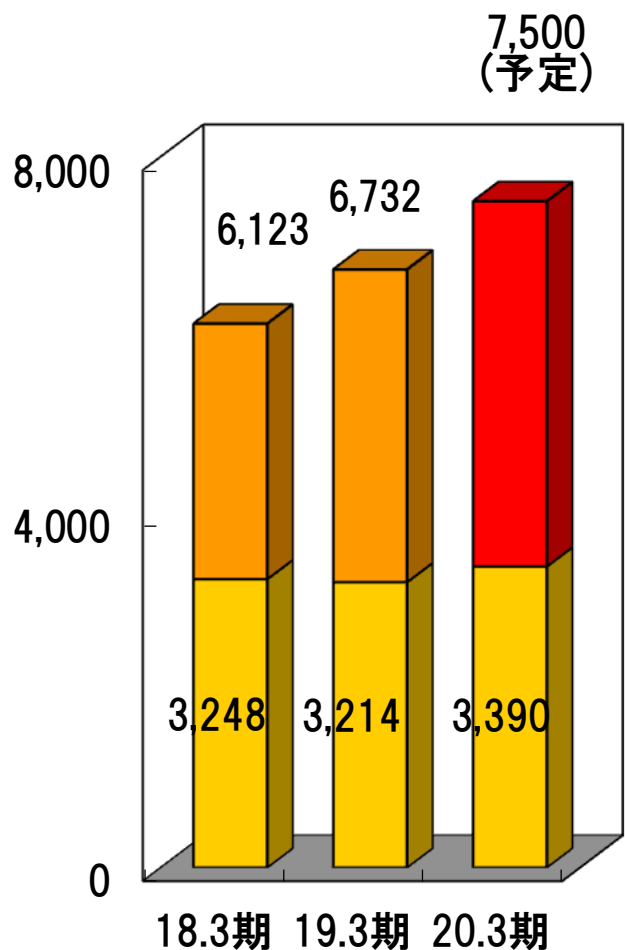




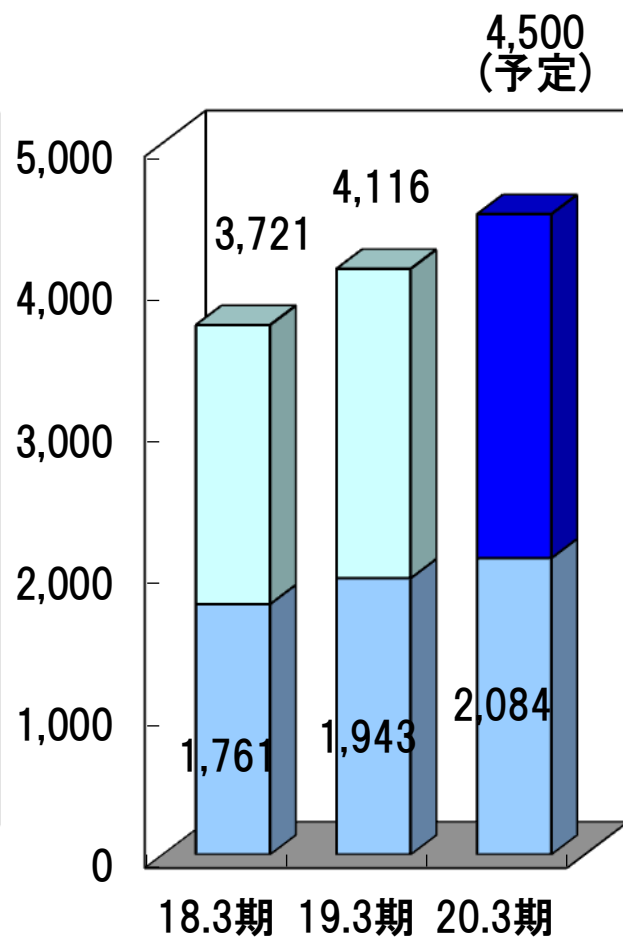
# 15. 設備投資・減価償却・研究開発



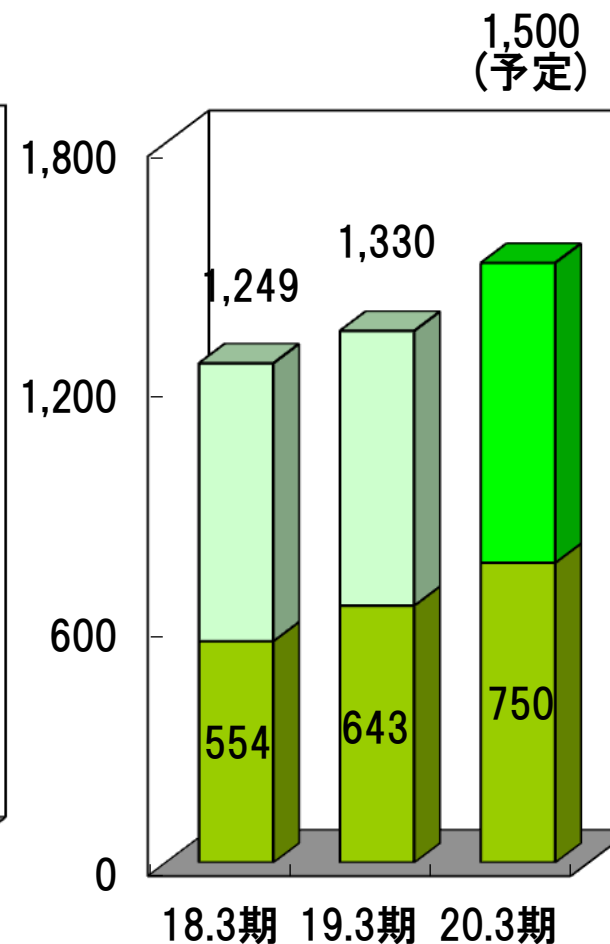
単位：百万円



## 設備投資



## 減価償却



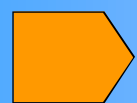
## 研究開発

注：各グラフの数値は、下段に第2四半期累計の実績、上位に通期での実績(20.3期は予定)を記載

ただし、設備投資はコンティンジェンシープランで6,500百万円へ削減予定



I . 2020.3期 第2四半期連結決算概要

 II . 2020.3期 連結決算見通し

# 1. 2020年3月期 修正計画



単位：百万円

- 期初計画では下期から市況が回復する見通しでしたが、今後も厳しい市況が続くと見込まれ、また足許の為替水準を考慮し、売上・利益ともに下方修正致します。  
(下期為替前提：108円/ドル、120円/ユーロ、15.3円/元)
- 上期は原価低減とコンティンジェンシープランは計画通り実施。下期は在庫の調整が終了することと、原価低減及びコンティンジェンシープランを着実に実行することで今期の営業利益率15%を確保します。
- 一方で、中長期的な成長戦略は変えずに、長期ビジョン売上1,000億円のための取り組み(技術開発、マーケティング、営業活動、生産力の強化、人財の強化)は積極的に実施します。

	19.3期 実績	20.3期 期初計画	20.3期 修正計画
売上高	42,834	45,000	40,500
営業利益	6,084 (14.2%)	8,100 (18.0%)	6,100 (15.1%)
経常利益	6,325 (14.8%)	8,100 (18.0%)	6,000 (14.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,722 (8.7%)	6,100 (13.6%)	4,400 (10.8%)
EPS	157.70円	258.84円	186.70円
為替	ドル 110.69円 ユーロ 128.43円 元 16.53円	ドル 110.00円 ユーロ 125.00円 元 16.50円	ドル 108.53円 ユーロ 120.77円 元 15.54円

この度の台風第19号により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

被災地などで救助や生活再建に尽力されている方々に敬意を表するとともに、皆様の安全と1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

### 1. 当社茨城工場への影響について

#### (1) 人的被害について

当社全社員への人的被害が無い事が確認できております。

#### (2) 生産への影響について

建物・製造設備等への影響はありません。

### 2. お客様への影響について

当社の協力会社様が被災しましたが、金型の移管などを行い、お客様への納期については問題ございません。

会 社 名	:	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	:	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	:	1966年12月
社 員 数	:	3,645名(2019年3月31日現在)
資 本 金	:	5,640百万円(2019年3月31日現在)
本 社	:	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	:	
	国 内	本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府
	海 外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	:	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、上海R&Dセンター
工 場	:	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

## コネクタの種類

### 基板対基板コネクタ（BtoBコネクタ）

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ（ボードtoボードコネクタ）とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B（ビー・ツー・ビー）は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

### FPC/FFCコネクタ

FPC基板（Flexible printed circuits）やFFCケーブル（Flexible flat cable）の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF（Zero insertion Force）タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

### I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O（インプット／アウトプット）コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面（裏・表面）に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

### ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン（電導体）”をハウジング（樹脂材でできた絶縁体）で支えたプラグ（オス側）コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続（基板間接続）に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。